

〈講演会記録〉

「日米中関係とアジア地域の安定化」

Japan-U.S.-China Relations and Stability in Asian Region

東郷和彦 世界問題研究所長

本講演会記録において掲載する、岩本誠吾、高原秀介、岑智偉、東郷和彦の4者による論文は、2012年11月2日（金）、上海社会科学院において開催されたシンポジウム「日米中関係とアジア地域の安定化」において行われた講演を、会議終了後それぞれが修正加筆したものである。

シンポジウム・プログラム

2012年11月2日 於上海社会科学院

9:30-10:00

報告者 岩本誠吾 京都産業大学法学部教授
「パーセプション・ギャップの視点から見る日中関係」

10:00-10:30

コメント 胡令遠 復旦大学日本研究所副所長
高蘭 上海社会科学院国際関係研究所研究員

10:30-11:00

報告者 高原秀介 京都産業大学外国語学部准教授
「日中関係におけるアメリカの影響——尖閣諸島問題を中心に——」

11:00-11:30

コメント 王少晋 上海交通大学日本研究所所長
劉阿明 上海社会科学院国際関係研究所准研究員

11:30-12:30

昼食

14:00-14:30

報告者 岑智偉 京都産業大学経済学部教授
「国際関係のカタストロフィー現象とその解釈——日中関係を例として——」

14:30-15:00

コメント 任曉 復旦大学国際問題研究院副院長
廉徳瑰 上海国際問題研究院教授

15:00-15:30

報告者 東郷和彦 京都産業大学世界問題研究所長

「現下の日米中関係と今後の展望——尖閣問題の緊張化の国際関係論による分析——」

コメント 劉鳴 上海社会科学院国際関係研究所常務副所長

シンポジウム開催経緯

京都産業大学と上海社会科学院は、2012年2月6日交流協定を締結。この協定に基づき、2012年度は、「日米中関係とアジア地域の安定化」について、二回の研究交流を実施することとし、第一回の交流研究会は、7月25日、社会科学院から代表団をむかえて京都産業大学むすびわざ館にて開催した（会合の詳細については、世界問題研究所「ニューズレター」Vol3、2012.10参照）。今回のシンポジウムは、その、第二回目の交流研究会にあたる。